

突発性発疹

生後 4~5 か月ごろから乳児期に感染するウイルスの病気で、6~7 か月ぐらいの赤ちゃんに多くみられます。3 日間前後続く急な高熱と下熱後の発疹が特徴の病気です。

原因

HHV6(human herpesvirus 6)、HHV7(human herpesvirus 7)というヘルペスウイルスの仲間のウイルスが原因です。HHV6 は乳児期に 8 割の赤ちゃんが感染し抗体を持つようになります。（不顕性感染といって感染しても発症しないケースが 20~40%あります）

HHV7 は HHV6 よりも感染時期が遅く 2 回目の突発性発疹を起こすことがあります。

7 割方が HHV6 で HHV7 は 25%程度、残りは他のウイルスによる可能性が考えられています。

症状

お母さんの胎盤を通してもらっていた抗体が減ってくる生後 4~6 か月ぐらいから発症するようになります。3~4 日続く高熱と下熱後の発疹が特徴で、発疹が出てくると不機嫌になるのも特徴です。

診断、治療

診断は典型例では熱の経過と下熱後の発疹が特徴的なので簡単です。発疹には特別な薬はなく、解熱剤も本人の元気があるときは必要ありません（たとえ 40℃でも元気があれば不要です！）。

のどの奥に発疹（永山斑）がみられることもあり、診断の役に立つことがあります。

咳や鼻水といった上気道症状はありませんが、カゼと合併していることはあります。

合併症

初めての高熱が突発性発疹であることも多く、熱性けいれんを起こすこともしばしばあります。

けいれんした場合数分以内で治まって意識もあるようなら救急車を呼ぶ必要はありませんが、念のため救急病院を受診することをお勧めします。けいれんが5分以上続く、意識がない、けいれんに左右差があるときは救急車を要請してください。